

平成30年 一般質問 12月定例会

質問議員	質問順	質問 番号	質 問 事 項
三浦安則	1	1	道路整備について
		2	スマート農業の振興について
片石鉄彦	2	1	漂流船の対策について
		2	スポーツセンターの活用について
花田英一	3	1	人口減少に伴う高齢者対策について

**三浦安則 議員**

**質問1 道路整備について**

先般、古い湯ノ岱生活改善センターから新しい湯ノ岱地区複合施設となり、完成祝賀会は、12月2日行いました敬老会とともに、約100名の出席者により盛大に執り行われました。町長さんをはじめ、議決機関の議員皆さんに、心よりお礼申し上げたいと思います。

工事期間中、大型トラック、重機・作業車等々が旧JR駅より踏切沿いの道を利用されていました。特に上ノ沢地区住民の方々も多くはこの道を利用されていました。施設の完成に伴い、複合施設へは多くの住民がこの道路を利用することと思いますので、この道を町道認定し整備してはいかがでしょうかと思いますが、町長の所見をお伺いいたします。

**答弁▼町長**

この道路は、湯ノ岱複合施設から西側へ町道湯ノ岱上ノ沢線との交点まで約160メートルあり、JR廃線前には湯ノ岱駅を利用する住民が通行し、現在もこの地域の生活道路として利用されております。

今回、町道認定し整備とのことですが、複合施設として出張所や集会施設が新設され、地域の皆さんが利用される機会は多くなることは予想されますが、車両等の交通量が増大することはないと思われまので、これまでどおり生活道路として管理してまいりたいと存じます。

**再質問**

道路整備について、たしかに重機車両は少なくなると思いますけども、長雨の時には、あの道路は非常に汚い道路になります。そういった意味で、生活道路であればあるほど、ある程度人々が住民たちが、やはりきれいな道を歩くということが大事なことはないのかなと。

また、お年寄りですからつまづくということもありますので、町道認定をさせていただいて舗装工事とか、お年寄りにやさしい道路というものを作っていただければと思います。

**答弁▼施設課土木建築担当課長**

その道路に関しては町でも除雪の堆積場所があり、活用したりしていますので、お年寄りが歩けるような道路の管理をしてまいりたいと思います。

**再々質問**

確かに言わんすることはわかるんですけども、実際水たまり等々けっこうあるんですね。それでどうしても水はけが悪くて、元JR線の方向に溝を掘ってみたりということがあるので、そういった意味でやはりこれから長い時間をかけて調査をしていただいで、できるだけ再考をしていただきたいと思いますが、その点についていかがですか。

**答弁▼副町長**

今の管理状況が砂利道のままであればあまり良くないということなんですけれど、先程課長が答弁したように堆積場としても利用してる部分もあります。あと、一部民地がかかっている部分もあるものですから、今の状況の中で町道認定できるかどうかというのは、いろいろ課題もあり、また、町道として整備するためには、それ相応のお金もかかります。そうすると、やはり交付金なり起債なりを使って行わなければ整備も難しいと。

いろいろな課題があり、議員のご質問のとおりお年寄りにやさしい道路ということであれば、ある程度の整備は必要なのかなとは思いますが、町の方としても調査、検討しながら、どのような形で整備したらいいのか改めて検討させていただきたいと思っております。

<b>質問2</b>	<b>スマート農業の振興について</b>
	<p>非常に耳に新しい響きを感じるこのスマート農業。この言葉に未来が見えてまいりました。農業の後継者、新規就農者の不足などの厳しい状況のもとで、農林水産業の競争力を強化し、農業を魅力ある産業とするとともに、担い手の意欲と能力を十分に発揮できる環境を創出していくために、農業技術においても省力化、軽労化や精密化などの方向性をめざすため、農林水産省・大臣官房室等々が総力を挙げて取り組んでおります。</p> <p>わが町としても将来を見据えた農業の振興を考える必要があると思っておりますが、町長の所見をお伺いいたします。</p> <p>さらに「スマート農業」の振興にあたり、どのような課題が存在するか町長の所見をお伺いします。</p>
	<b>答弁▼町長</b>
	<p>まず、前段の「将来を見据えた農業の振興を」についてですが、当町においても農業者の高齢化や新規就農者不足など厳しい状況であることは十分認識しており、その対策の一環として基盤整備の推進や農業機械等の購入の助成など農業者の要望に、柔軟に対応した施策を展開しているところでございます。</p> <p>また、後段の「スマート農業の振興の課題」についてでございますが、町レベルとしては、操作技術の習得、導入コスト、ほ場環境等が考えられるところでございます。</p>
	<b>再質問</b>
	<p>1回目の回答の関係でいくと、基盤整備がある程度整ってきていますよね。そしてまた今回も、暗渠排水もかなりやられてきてると。ある意味状況が少しずつ、この今のGPSが使えるような状況にはなってきているというふうな想像はしますし、またそういった点では、今農業機械等の購入のための補助金を出していると。その関係でいくと、今の受信機、GPSからくる受信機も含まれるという意味なのか、一つはその点でお伺いしたいし、もう一つは操作技術の習得ということがありますけども、たしかにGPSから受信機にくるといふ、そういった意味ではその操作技術、またそれを柔軟に使っていくとなればトラクターの改良等とあるかと思っておりますけども、そういった意味で、今後、何年かかけてそういった環境を作っていくというふうな状況にあるのかどうか再質問させていただきます。</p>
	<b>答弁▼農林課長</b>
	<p>機械補助等についてはこのGPSガイダンス、自動操舵等も含まれておりまして、実際にもう3名ぐらいが導入しております。それと技術の習得に関してですけども、これについて、いろいろところでセミナーとか講習会をやっておりますので、そちらのほうにも積極的に参加してもらえれば幸いだと思っております。</p>

## 片石鉄彦 議員

### 質問1 漂流船の対策について

昨年11月に松前小島で北朝鮮船籍の木造船が発見されて以降、今年に入ってから北朝鮮船籍と思われる小型漁船が多数日本海沿岸に漂着しております。本町でも今年だけで6隻の木造船が漂着いたしました。このため漁船の運航や漁具への被害、密入国者があった場合の生活の安全などが心配されております。

今後、漂流船が発見された場合の対処方法やその処理費用についてどのように措置されるのか。また、漁船や漁具などに被害があった場合に、誰が補償するのか。さらに密入国者への監視や住民の安全安心対策をどうするのかお伺いいたします。

### 答弁▼町長

北朝鮮からと思われる木造船は小砂子地区に漂着が確認されてからこれまで6隻が漂着し、今後も漂流、漂着する恐れが懸念されているところであります。

その対処方法や処理費用については、去る11月26日に北海道檜山振興局において江差海上保安署はじめ関係機関による連絡調整会議が開催され、漂流船の通報があった場合の適切な対処方法が確認されたところであります。また、処理費用については町の支出となりますが、海上保安署の調査により北朝鮮のものと認定された場合は全額国の補助金等でまかなわれることとなります。

これまで漂着した木造船は海上保安署の調査では北朝鮮からのものと取り扱っていると回答を得ており、また、船内には特異な事象は見られないことや損傷の程度から、廃棄物として町に引き渡されています。しかしながら、漂流船による漁船や漁具の被害にあった場合の補償については明確な定めはありません。

このようなことから海上保安署においては、漂流船の位置等を状況提供しての注意喚起や漁具等の被害が想定される場合にあっては、巡視船にて最寄りの港湾等に曳航し被害の未然防止に努めることとしております。

不審船の漂流、漂着等に関しては住民の安全・安心の確保や不安解消に向けた対応が最も重要であり、的確な情報の伝達及び情報共有を図る必要があることから、北海道において初動対応に係る対応者訓練が実施され、町の担当者も参加しているところでございます。また、海上保安署では海上パトロール、海岸線の巡回等を行い、不審な船や不審人物を目撃した場合には直ちに通報するよう呼びかけてもおり、ひやま漁協においては水産多面的機能発揮対策支援事業の実施により、漁業者による町内全域の水域監視活動が行われることとなっております。町といたしましてもこれら関係機関と連携を密にし、住民の不安解消に向けた万全の体制を図ってまいりたいと考えております。

### 再質問

6隻の木造船が漂着したんですが、現在処理はどのようになっているのか。もし全部処理できないとしたら、いつまでに処理されるのかについて伺います。

また、新聞によりますと、もうすでに国からの処理費用が足りなくなっているということでありまして、事前着手はできないとなっておりますけれども、今後新聞を見ますと、ますます数が増えるだろうというような予測も載ってます。そういう中で、漁具や漁船の航行等に被害があった場合に補償の定めがないということでもありますから、漁民にしたら本当に納得のいかないことだと思いますが、そういう場合の対策として、例えばやむを得ず、24時間体制で監視できるわけでありませぬから、いつ漂着するかわかりませぬので漁場へ漂着した場合に巡視船による曳航して、また近くの邪魔にならない場所につないでおくか、そういうような対策も必要だと思います。

また、現在密入国の情報はありませんけれども、松前小島の問題もありますから、なきにしもあらずでありますから、そのために今いろいろ警察その他関係機関では広報をやってますけれども、やっぱり本町でも例えば防災無線や広報等使って住民に対して、そういう不審船を見かけたら通報するような、そういう広報もしていかなくやらないと思いますけれども、いかがかお伺いします。

### 答弁▼水産商工課主幹

現在の処理についてなんですけども、今はもう一度海に流されないように陸側の方に引き上げたり、形のある船に対してはビニールシートで覆っております。散らからないようにだとか、また2度目の警察への通報等がいかないようにという思いもありまして、警察、海上保安署からの考え方もありまして困っております。

事前着手につきましては、先日も住民の方から依頼があったんですけども、申請しております住民課の方から話を伺いましたところ、事前着手の方は無理であると言われておりまして、現在は申請して補助指令待ちとなっております。なお、指令に関しましては、今週中に来る予定となっております。指令が届き次第また町として考えていくこととなります。補償に関しましては、ちょっと先程も答弁のほうにもありましており、補償等はないのが現状であります。

広報に関しましては、広報誌等で周知するようにしていきます。

	<b>再々質問</b>
	<p>まず漂流船の処理なんですけど、だいたい目安として現在今6隻ですけども、その処理が終わるのはいつ頃になりますか。それと、今後漁業者への補償がないということでもありますから、漂着した場合に巡視船などで曳航して、町でやると事前着手になりますから、お金もらえませんが、やっぱりそういう巡視船等でその漁場に漂着した場合には、引っ張ってもらって邪魔にならないところに曳航してもらおうとか、それについてはいかがですか。</p>
	<b>答弁▼副町長</b>
	<p>処理の状況なんですけど、先程も行政報告なり一般質問の答弁の中にありましたとおり、今回、解体費用については、補助の対象にできないと、あくまでも回収、集積作業、陸揚げ作業ですね、この分より平成30年度は予算としてつけれないという話になっております。ですから、町としては陸揚げ作業をして一時保管するという形で今年度は考えております。</p> <p>解体費用については、解体または処分費用については31年度に行う考え方でおります。早ければ、今、予定では今週中に内示が出る見込みですので、出た段階で早急に処理をしたいというふうに思っております。大安在とかによった船については民家から相当遠いので、揚げればよるしいんですけど、民家に近い場所に漂着してるものもありますので、この辺についてはですね速やかに処理したいというふうに考えております。</p> <p>それから、曳航については、先日も連絡協議会の中で海上保安については、今までは目視していたものについても、そういう危険性がある部分については、曳航していくと。ただ、海上保安については、やはり港湾でないと入れないものですから、港湾に全て入れるということになると一部の市町村に全ての費用がかかるということで、近くの漁港などに曳航したいと。その曳航されたものについては、途中からは地元の船なりチャーターして引き取っていただくような形をお願いしたいということで、先日も12月1日に発見されました漂流物については、海上保安で大崎漁港の方に曳航して、それを途中から本町の船で引き取ったような形を取っております。今後もそのような形で行うことになると思います。</p>

<b>質問2</b>	<b>スポーツセンターの活用について</b>
	<p>本年7月にスポーツセンターが供用開始され、これまでバレーボールやバスケットボールなどのプロ選手が来町し、各種イベントに参加していただきました。</p> <p>また、介護予防や健康増進を図るために、東京のフィットネスクラブ運営会社「ライザップ」によるプログラムが3ヶ月間実施され、11月に終了したと伺っております。このプログラムに参加した方からは、ほぼ全員が大変成果があったとお聞きしておりますが、どのようなプログラムでどのような成果があったのかお伺いいたします。</p> <p>さらに、ますます高齢化が進む本町の介護予防や健康増進を図るためにこのような事業を継続して、スポーツセンターの有効活用を図るべきと思いますが、教育長の所見をお伺いして1回目の質問を終わります。</p>
	<b>答弁▼教育長</b>
	<p>上ノ国町スポーツセンターは本年7月の開館から5ヶ月間を経過し、町民のスポーツレクリエーション活動の拠点として活用されているところであります。</p> <p>今年度におきましては、プロスポーツ選手による講習会の実施や保健福祉課との共催による健康増進プログラム等を実施しておりますが、健康増進プログラムにつきましては、「健康的な生活への意識改革」を目指し実施したもので、株式会社ライザップのトレーナーによる生活習慣の改善を目的とした食事指導管理と運動指導となっております。参加者からは個人の目標値をほぼ達成し、健康的な生活に対する意識が向上したと伺っておりますが、今後においてもスポーツセンターの有効活用を図るため、幅広い年齢層に体験し、喜んでもらえるプログラムを検討してまいりますのでご理解願います。</p>
	<b>再質問</b>
	<p>大変いい事業で、まだまだやっていただきたいと思いますが、このプログラムはどの年齢層の人が参加されたのか。また、皆さんが目標値等を達成した、ほぼ達成したと伺っておりますけれども、これは体重が減少したという理解でよろしいのか。さらに、その他の値、例えば血糖値が下がったとか、そのような効果はどうだったのかについて伺います。</p>
	<b>答弁▼教育委員会事務局長</b>
	<p>今回実施した結果につきましては、まず、年齢層は一番若い方で30歳、一番年長だった方で69歳ということで、大きく二つの若いグループと上のグループという形で分けて実施しております。</p> <p>成果につきましては、体重につきましては参加者40名の全員の平均からしますと、マイナス3.7キロです。体脂肪につきましても平均でマイナス2.1。あと筋肉量ですね、筋量のほうも、こちらも結果としましてマイナス1.0というような数値にはなっております。体重につきましても、一番大きく落ちた方で3ヶ月で9.8キロ、約10キロほど減量となっております。体脂肪につきましても、一番大きく落ちた方でマイナス5.5パーセントというような形の数値となっております。</p> <p>プログラムの内容自体につきましては、初回のプログラムになるんですけども、初回はトータルで1時間20分のプログラムとなっております。その内容につきましては、まず1番最初ということで基本の体力測定がありまして、その後目標の設定などのお話、食事についての重要性ですとか食に対する講義などの時間がほとんどとなっております。</p> <p>最後に10分ほど体を使ってストレッチなどの時間というようなことになっております。計8回やっているんですけども、比較的その生活習慣の改善ということで、特に食事に対する改善の部分を中心にですね、8回の講習を行っている状況となっております。</p>

## 花田英一 議員

### 質問1 人口減少に伴う高齢者対策について

上ノ国町の高齢者は町の人口の約4割になろうかという状況であります。これからも人口減少が進む中、町長は6月議会の町政執行方針で、高齢者がいきいき暮らせる福祉政策をとっていくとのことですが、具体的にどのような政策なのかお伺いいたします。

#### 答弁▼町長

65歳以上の高齢者人口の割合は、全国で28パーセント、本町では41パーセントと今後も地方、都市ともにこの上昇傾向は続いていくものと予想されます。本町の実態といたしましては、高齢者が約2,000人おりますが、うち介護保険の認定を受けている者は約400人程となっております。

認定者は、それぞれ介護度の軽重により特別養護老人ホームやグループホームへの入所、また在宅の方はヘルパーサービスやデイサービス等を利用しています。これらのサービスは、介護保険法の適用を受け行われておりますが、当該適用を受けない本町独自の福祉政策として行われているものに、除雪サービスや一人暮らしの方を対象とした緊急通報システム等があります。

議員ご質問の今後の具体的な福祉政策といたしましては、災害時に援護の必要な方への避難対応を町内会や消防等と連携しながら検討中であります。また、町営住宅の建替えにあたっては、サービス付き高齢者住宅の建設を検討したいと考えております。

6月定例会の一般質問で答弁しました町内の交通体系につきましては、公立はこだて未来大学と連携して調査検討するため協議中であります。今後、それぞれ具体的な内容が決定次第、議員皆様にもご報告申し上げたいと存じます。

#### 再質問

今の答弁では、いろいろ高齢者対策については考えてるということでございますが、上ノ国町は他の自治体よりも早く子どもの医療費の無償化、保育料や給食費、子育て支援対策や農業漁業中小企業体に対しても思い切った施策をとっているところでございますが、高齢者に対しては何か即効的に、これは上ノ国町で高齢者に対してこういうことやりますよというような、そういうような施策はないものですか、お伺いいたします。

#### 答弁▼副町長

なかなか厳しいですね、はっきり申し上げまして。本人の負担を軽減するための子育て支援の関係については、本人の負担を減らすということで、子どもを親が育むような環境を整えるというような形で実施しておりますけど、福祉政策については、なかなかそういう部分というのは厳しいものなのかなと。ただ言えるのは、今高齢者の運転免許の、やはり危険だということで返還が最近各方面で叫ばれております。そのようなことについて、町としても検討できないかということ、先程の交通体系も含めて、具体的にその辺を検討できないかなというふうに思っております。

#### 再々質問

町として、まあいろいろなかなか難しい。高齢者に対して例えば、私なら今まで様々な支援策、他のいろんな人含めて子育て支援やっているんだけど、この高齢者に対して介護保険の料金をこの前上ノ国町を含めた檜山全体の介護保険料の保険料が新聞等に載っていたんですけど、上ノ国町はそれなりに高いというような思いでいるんですが、乙部町とか奥尻町とか、上ノ国町から見れば多少なりとも値段が安いような気がしますが、その点について上ノ国町もこれぐらいは下げたよというような、そういうような施策というか政策はとれないものですか。

#### 答弁▼保健福祉課長

介護保険の料金については、3年ごとに見直しされてまして、その時々によって金額も変わってきております。その介護保険料の軽減という方策も、上ノ国独自でも今までも考えてきてまして、今後も高齢者福祉政策の一つとして、その介護保険の関係で軽減、支援そういう形のをできればというふうに考えていきたいと思っております。